

令和3年度 事業報告書

社会福祉法人 秋田県身体障害者福祉協会

目 次

(頁)

I 概 況

[組織運営の実績]	・・・	1
[事業の実績]	・・・	4
【1】（重点目標1） 障害者支援施設秋田ワークセンターの運営・管理	・・・	4
秋田ワークセンター相談支援事業所の運営・管理	・・・	4
コミュニティライフサポート谷内佐渡ホームの運営・管理	・・・	4
【2】（重点目標2） 障害者の自立更生の環境づくりと社会参加の促進	・・・	5
【3】（重点目標3） 市町村身体障害者協会の組織強化と活動の活性化	・・・	7
【4】（重点目標4） 研修開催による人材育成事業の推進	・・・	8
【5】（重点目標5） 3障害（身体・知的・精神）を統合した事業の推進	・・・	9

II 事業別の概要

【1】 障害者支援施設秋田ワークセンター事業の実績	・・・	10
【2】 秋田ワークセンター相談支援事業の実績	・・・	22
【3】 コミュニティライフサポート谷内佐渡ホーム事業の実績	・・・	24

令和3年度 事業報告書

I 概況

社会福祉法人として地域福祉の推進に寄与するため、障害者支援施設等の社会福祉事業や県からの委託事業を効果的かつ適正に執行するため、正副会長会議や評議員会、理事会、評議員選任・解任委員会などの諸会議を新型コロナウイルス等感染症予防対策を講じたうえで、適時適切に開催した。（書面決議を含む。）

事業の実施では、県からの委託事業を実施するにあたり、県民の福祉ニーズに適切に対応するため、感染症の拡大に十分留意しながら、行政や関係団体等と連携を図り、最小の経費で最大の成果を挙げるよう取り組んだ結果、各事業ともに概ね所期の目的を達成することができた。

県からの委託事業として実施3年目となる「小中学生向け障害理解教室」は、障害のある方々が講師として25校（昨年度16校）の小中学校に出向き、車いす乗車体験や盲導犬とのふれあい体験や見えない世界を肌で感じる体験、点字等を学ぶことによって、1,760名の児童・生徒（前年度1,202名）に対して障害の特性や障害者への理解を一層深める機会を提供することができた。

「サービス管理責任者等研修」は、受講者や講師等関係者の感染症予防対策として対面での集合研修とオンラインによる遠隔研修を組合せるなどの措置を講じながら、全てのカリキュラムを予定どおり実施することができた。

「第21回いきいき芸術・文化祭開催事業」は、「秋田拠点センターアルヴェ（秋田市）」を会場に、感染症予防対策のため参加者の安全面を考慮し規模を縮小して実施したが、前年度並みの延べ24の障害福祉事業所の参加を得て手工芸品や加工食品などを販売する製品販売を実施したほか、秋田県障害者芸術福祉展においては、前年度と同様に展示作品のバーチャルツアー形式によるインターネット公開により、福祉展終了後にいつでも作品を鑑賞することができるようにするなど、障害のある方々の芸術作品の素晴らしさを広く県民に周知することができた。

[組織運営の実績]

1 評議員会

(1) 第1回（書面決議）

- ・決議日 6月24日（木）
- ・同意評議員 17名
- ・非同意評議員 0名
- ・議案

議案第1号 任満了に伴う次期理事及び監事の選任（案）について

議案第2号 令和2年度事業報告について

議案第3号 令和2年度収支決算について

議案第4号 社会福祉充実計画について

(2) 第2回（書面決議）

- ・決議日 令和4年3月25日（金）
- ・同意評議員 17名
- ・非同意評議員 0名
- ・議案

- 議案第1号 令和3年度資金収支第1次補正予算(案)について
- 議案第2号 令和4年度事業計画(案)について
- 議案第3号 令和4年度資金収支予算(案)について

2 理事会

(1) 第1回(書面決議)

- ・決議日 6月14日(月)
- ・同意理事 9名
- ・非同意理事 0名
- ・議案
 - 議案第1号 評議員選任・解任委員会に推薦する評議員候補者について
 - 議案第2号 評議員選任・解任委員会委員の選任(案)について
 - 議案第3号 職員就業規則等一部改正(案)について
 - 議案第4号 令和2年度事業報告について
 - 議案第5号 令和2年度収支決算について
 - 議案第6号 社会福祉充実計画について
 - 議案第7号 令和3年度第1回評議員会の招集について
 - 議案第8号 市町村協会活性化事業及び障害理解促進事業実施計画の変更について

(2) 第2回

- ・期日 6月24日(木)
- ・場所 県心身障害者総合福祉センター
- ・出席者 理事8名、監事2名
- ・欠席者 理事1名
- ・議案
 - 議案第1号 会長の選任について
 - 議案第2号 副会長の選任について
 - 議案第3号 常務理事の選任について

(3) 第3回(書面決議)

- ・決議日 令和4年3月10日(木)
- ・同意理事 8名
- ・非同意理事 0名
- ・議案
 - 議案第1号 職員就業規則等改正(案)について
 - 議案第2号 令和3年度資金収支第1次補正予算(案)について
 - 議案第3号 令和4年度事業計画(案)について
 - 議案第4号 令和4年度資金収支予算(案)について
 - 議案第5号 令和3年度第2回評議員会の招集について

3 正副会長会議

(1) 第1回

- ・期 日 6月7日(月)
- ・場 所 県心身障害者総合福祉センター
- ・出席者 会長、副会長2名、常務理事、所長
- ・協議事項(理事会及び評議員会への提出議題の審査)
 - 協議事項1 任期満了に伴う次期理事及び監事の選任(案)について
 - 協議事項2 任期満了に伴う次期評議員の選任(案)について
 - 協議事項3 評議員選任・解任委員会委員の選任(案)について
 - 協議事項4 職員就業規則等一部改正(案)について
 - 協議事項5 令和2年度事業報告について
 - 協議事項6 令和2年度収支決算について
 - 協議事項7 社会福祉充実計画について
 - 協議事項8 令和3年度第1回評議員会の招集について
 - 協議事項9 市町村協会活性化事業及び障害理解促進事業実施計画の変更について
 - 協議事項10 その他

(2) 第2回

- ・期 日 7月15日(木)
- ・場 所 県心身障害者総合福祉センター
- ・出席者 会長、副会長2名、常務理事、所長
- ・協議事項
 - 協議事項1 令和3年度秋田県身体障害者福祉協会会長表彰候補者の審査について
 - 協議事項2 第39回秋田県身体障害者福祉大会の開催概要(案)について
 - 協議事項3 その他

(3) 第3回

- ・期 日 令和4年3月10日(木)
- ・場 所 県心身障害者総合福祉センター
- ・出席者 会長、副会長2名、常務理事、所長
- ・協議事項(理事会及び評議員会への提出議題の審査)
 - 協議事項1 職員就業規則等改正(案)について
 - 協議事項2 令和3年度資金収支第1次補正予算(案)について
 - 協議事項3 令和4年度事業計画(案)について
 - 協議事項4 令和4年度資金収支予算(案)について
 - 協議事項5 令和3年度第3回理事会及び第2回評議員会の開催に関すること
 - 協議事項6 資金運用状況について
 - 協議事項7 令和3年度社会福祉施設等指導監査の結果について
 - 協議事項8 秋田ワークセンター就労継続支援A型事業の休止について
 - 協議事項9 その他

4 評議員選任・解任委員会

(1) 第1回

- ・期 日 6月17日(木)
- ・場 所 県心身障害者総合福祉センター
- ・出席者 委員3名、会長、常務理事
- ・議 案
議案第1号 任期満了に伴う次期評議員の選任(案)について

5 監 査 令和2年度における理事の業務執行状況及び法人の財産状況等の監査

(1) 秋田ワークセンター

- ・期 日 5月25日(火)
- ・場 所 会議室
- ・出席者 監事2名、常務理事、所長
- ・内 容
 - ①職員紹介
 - ②事業報告概要説明(施設所管分)
 - ③収支決算概要説明(施設所管分)
 - ④昨年度監査講評事項への対応状況の報告
 - ⑤監査

(2) 法人事務局

- ・期 日 5月26日(水)
- ・場 所 県心身障害者総合福祉センター
- ・出席者 監事2名、会長、常務理事、所長(講評時)
- ・内 容
 - ①職員紹介
 - ②事業報告概要説明(法人事務局所管分)
 - ③収支決算概要説明(法人事務局所管分)
 - ④監査
 - ⑤全体講評
 - ⑥会長あいさつ

[事業の実績]

- 【1】(重点目標1)・障害者支援施設秋田ワークセンターの運営・管理
(10頁記載)
- ・秋田ワークセンター相談支援事業所の運営・管理
(22頁記載)
- ・コミュニティライフサポート谷内佐渡ホームの運営・管理
(24頁記載)

【2】（重点目標2）・障害者の自立更生の環境づくりと社会参加の促進

1 自立更生の環境づくり

(1) 障害者地域生活支援事業

障害者の自立更生の環境づくりのため、関係団体が自主的な事業に取り組むための助成金を交付するなど、その円滑な事業推進を図った。

①オストメイト社会適応訓練事業

日本オストミー協会秋田県支部が県内3地区において、装具、器具の使用法と選択法やストマクリニックや社会生活上の基本的事項に関する相談、情報交換等を感染症に配慮のうえ実施した。

- ・実施地区 秋田市、横手市、大館市
- ・参加者数 42人

②音声機能障害者発声訓練事業

喉頭摘出者福祉団体「秋笛会」が県内3地区において、食道発声訓練、各種相談、人工喉頭又は電気発声機による発声訓練等を実施する訓練会を感染症に配慮のうえ実施した。

- ・実施地区 秋田市、能代市、横手市
- ・参加者数 100人

③筋ジス者機能訓練事業

秋田県筋ジスの会が、筋ジストロフィー者に対して、社会生活上必要な知識の習得や情報交換等の場として、検診、医療講話や医療相談を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症予防対策として、開催を中止した。

④車いす使用者のためのレクリエーション事業

秋田県車いす連合会において、運動会、ゲートボール大会、文化交流会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染防止のため、車いす利用者を対象に、秋田県が製作した「障害を正しく理解するためのハンドブック」を全会員に配布することによって、啓発を促進した。

- ・配布人数 72人

(2) 小中学生向け障害理解教室の実施

障害のある方などが講師として県内の小中学校に出向いて講話や障害疑似体験などを行うことで、児童・生徒と障害者の交流を図るとともに、障害及び障害者への理解を深め、心のバリアフリーの推進につなげることを目的として「小中学生向け障害理解教室」を実施した。

- ・実施学校数 25校・延べ26回開催（令和2年度：16校・延べ17回）
- ・参加生徒数 1,760人（令和2年度：1,202人）
- ・内 訳

実施日	学校名	講座名	参加生徒数
6月30日	秋田市立築山小学校	見えない世界を見てみよう	68人
7月5日	秋田市立桜小学校	盲導犬を知ろう	160人
7月8日	秋田市立飯島南小学校	盲導犬を知ろう	76人
7月12日	八郎潟町立八郎潟小学校	盲導犬を知ろう	30人
7月12日	大館市立西館小学校	点字を学ぼう	20人
7月14日	秋田市立日新小学校	盲導犬を知ろう	130人
7月16日	秋田市立河辺小学校	車いす体験教室	25人
8月25日	由利本荘市立鶴舞小学校	車いす体験教室	65人
8月31日	秋田市立旭南小学校	車いす体験教室	59人
9月3日	秋田市立飯島小学校	盲導犬を知ろう	69人

9月 8日	秋田市立御所野小学校	盲導犬を知ろう	96人
9月14日	秋田市立寺内小学校	盲導犬を知ろう	42人
9月14日	秋田市立土崎南小学校	車いす体験教室	43人
9月15日	秋田市立仁井田小学校	盲導犬を知ろう	108人
9月15日	秋田市立牛島小学校	見えない世界を見てみよう	61人
9月24日	秋田市立明德小学校	車いす体験教室	29人
9月28日	秋田市立港北小学校	盲導犬を知ろう	84人
10月 6日	秋田市立八橋小学校	盲導犬を知ろう	81人
10月11日	大館市立花岡小学校	点字を学ぼう	13人
10月19日	男鹿市立男鹿東中学校	車いす体験教室	104人
10月22日	大館市立城南小学校	車いす体験教室	49人
11月 4日	北秋田市立鷹巣東小学校	見えない世界を見てみよう	13人
11月 5日	秋田市立東小学校	車いす体験教室	85人
11月10日	秋田市立旭川小学校	盲導犬を知ろう	79人
11月19日	秋田市立桜小学校	車いす体験教室	161人
12月 6日	三種町立金岡小学校	車いす体験教室	10人

(3) 車いす使用者等への理解・啓発事業

車いす使用者等への理解と啓発を図るため、車いす使用者が講師として県内の小学校において感染症に配慮のうえ講座等を行うとともに、作成したパンフレットやリーフレットを配布することで障害に対する理解を深めた。

- ・実施学校数 8校 (令和2年度：6校)
- ・参加生徒数 473人 (令和2年度：442人)
- ・内 訳

実施日	学校名	講座名	参加生徒数
7月 7日	秋田市立寺内小学校	バリアフリー教室	42人
7月12日	秋田市立浜田小学校	バリアフリー教室	16人
7月19日	横手市立横手北小学校	車いす者支援講座	63人
9月28日	横手市立旭小学校	車いす者支援講座	55人
10月13日	秋田市立旭北小学校	バリアフリー教室	44人
11月11日	秋田市立仁井田小学校	バリアフリー教室	109人
11月22日	横手市立横手南小学校	車いす者支援講座	100人
11月26日	横手市立朝倉小学校	車いす者支援講座	44人

2 社会参加の促進

(1) 身体障害者更生相談事業

身体障害者の更生のために必要な各種相談に応じ、適切な指導、助言を行うことで、身体障害者福祉の増進を図った。

- ・相談件数 21件

(2) 身体障害者ジパング倶楽部への加入受付

日本身体障害者団体連合会と連携し、JR東日本の協力のもと、ジパング倶楽部の身体障害者向け特別会員の受付業務を行った。

- ・入会件数 新規3件 更新65件 合計68件

(3) 秋田県障害者スポーツ協会が実施する事業への協力

職員派遣等により協力をする予定としていた第19回秋田県障害者スポーツ大会及び第21回全国障害者スポーツ大会が、感染症予防のため中止となった。

【3】（重点目標3）・市町村身体障害者協会の組織強化と活動の活性化

1 秋田県身体障害者福祉大会開催事業

第39回秋田県身体障害者福祉大会を10月8日（金）「秋田県立武道館（秋田市新屋）」において開催の予定であったが、参加者の新型コロナウイルス感染症予防のため昨年同様中止とし、「令和3年度秋田県身体障害者自立更生等表彰式」を11月22日（月）「秋田県庁「正庁」」において開催し、秋田県知事表彰並びに秋田県身体障害者福祉協会会長表彰の授与を行った。

- ・期 日 11月22日（月）
- ・場 所 秋田県庁「正庁」
- ・表彰の内訳

(1) 秋田県知事表彰14名（自立更生者4名、団体育成功労者10名）

(2) 秋田県身体障害者福祉協会会長表彰21名（自立更生功労者10名、団体育成功労者11名）

(3) 出席者

①知事表彰受賞者等15名

②来賓

秋田県議会議長、秋田県議会福祉環境委員長

③主催者

秋田県副知事、秋田県健康福祉部長、秋田県健康福祉部健康医療技監、秋田県健康福祉部次長、秋田県健康福祉部障害福祉課長、秋田県身体障害者福祉協会会長、秋田県身体障害者福祉協会副会長、秋田県身体障害者福祉協会常務理事他

2 市町村身体障害者協会会長・事務担当者会議

各市町村身障協会の活動事例の情報交換等を行うなど、各団体の活動の活性化に向けた取組みの重要性について相互理解を深めるため、6月に県内3地区においての開催を予定していたが、参加者の新型コロナウイルス感染症予防のため、昨年同様中止とした。

3 障害者のための軽スポーツレクリエーション大会開催事業

昨年度から新たに実施した「ボッチャ競技」を10月に開催する予定としていたが、参加者の新型コロナウイルス感染症予防対策のため中止としたが、会員等への貸出用としてボッチャの用具2式を整備した。

4 会報「身障秋田」の発行

当協会の事業活動や予算・決算を掲載した会報「身障秋田」を作成して市町村協会会員等に配布するとともにホームページで公開することにより、当協会の活動内容を広く周知した。

- ・発行月 令和4年1月
- ・発行部数 3,000部

5 法人ホームページの運営

障害者情報ネットワーク「ノーマネット」を活用し、身体・知的・精神の障害のある方々に関する各種情報を提供している当法人のホームページを公開することによって、障害者福祉に関する各種情報の提供や市町村協会の紹介などを行い市町村協会会員の確保に努めた。

- ・年間アクセス数 10,140件

【4】（重点目標4）・研修開催による人材育成事業の推進

1 サービス管理責任者（児童発達支援管理責任者）研修の実施

障害福祉事業所におけるサービスの質の確保と向上のため、関係法令等に基づくサービス管理責任者等の知識及び技術の向上等を目的に実施する研修で、新型コロナウイルス感染症対策のため、本年度は次のとおりハイブリット形式（オンライン研修と対面での集合研修の併用）で実施した。

（1）更新研修の開催

- ・期 日 9月8日・9月10日
- ・場 所 職場又は自宅（集合研修参加者は「遊学舎」で受講）
- ・修了者 171名

（2）基礎研修の開催

①共通講義

- ・期 日 8月17日～9月6日（e-ラーニングによる受講）
- ・場 所 職場又は自宅

②A日程（演習は障害者がテーマ）

- ・期 日 10月12日～13日
- ・場 所 職場又は自宅（集合研修参加者は「遊学舎」で受講）

③B日程（演習は障害児がテーマ）

- ・期 日 10月27日～28日
- ・場 所 職場又は自宅（集合研修参加者は「秋田県社会福祉会館」で受講）

④修了者 143名

（3）実践研修の開催

- ・期 日 ①11月25日～26日②12月21日～22日
- ・場 所 ①は職場又は自宅（集合研修参加者は「秋田県社会福祉会館」で受講）②は集合研修なし
- ・修了者 91名

（4）研修準備打合せ会の開催

①更新・基礎研修打合せ会

- ・期 日 8月4日（水）
- ・場 所 「遊学舎」
- ・内 容 研修内容の説明（WEB研修の進め方等）
- ・出席者 講師・ファシリテーター（助言者）14名、県障害福祉課1名、事務局4名

②更新研修打合せ会

- ・期 日 8月31日（火）
- ・場 所 ウェブ会議（秋田県社会福祉会館9階会議室）
- ・内 容 研修内容の説明及び演習の進め方等について
- ・出席者 講師・ファシリテーター（助言者）16名、県障害福祉課1名、事務局2名

③基礎研修A日程打合せ会

- ・期 日 9月30日（木）
- ・場 所 ウェブ会議（秋田県社会福祉会館9階会議室）
- ・内 容 研修内容の説明及び演習の進め方等について

- ・出席者 講師・ファシリテーター（助言者）11名、県障害福祉課1名、事務局2名

④基礎研修B日程打合せ会

- ・期 日 10月19日（火）
- ・場 所 ウェブ会議（秋田県社会福祉会館9階会議室）
- ・内 容 研修内容の説明及び演習の進め方等について
- ・出席者 講師・ファシリテーター（助言者）8名、県障害福祉課1名、事務局2名

⑤実践研修打合せ会

- ・期 日 11月16日（火）
- ・場 所 秋田県社会福祉会館9階会議室
- ・内 容 研修内容の説明及び演習の進め方等について
- ・出席者 講師・ファシリテーター（助言者）11名、県障害福祉課1名、事務局2名

(5) 国の指導者養成研修（リモート研修）への参加

①事前講義（映像配信オンデマンド）

- ・期 日 専門コース別研修開始までに事前視聴が必須
- ・場 所 県庁会議室
- ・参加人員 4名

②専門コース別研修（ズームによる双方向通信）

- ・期 日 6月30日
- ・参加人員 4名

③演習（ズームによる双方向通信）

- ・期 日 7月1日・2日
- ・参加人員 4名

④フォローアップ研修（ズームによる双方向通信）

- ・期 日 3月1日
- ・参加人員 4名

【5】（重点目標5）・3障害（身体・知的・精神）を統合した事業の推進

1 芸術・文化講座開催等事業

第21回心いきいき芸術・文化祭を例年の実施内容を縮小するとともに、新型コロナウイルス感染症予防に十分な配慮をしながら次のとおり開催した。

(1) 第21回心いきいき芸術・文化祭の開催

- ・期 日 11月12日（金）～13日（土）
- ・場 所 「秋田拠点センターアルヴェ（秋田市）」
- ・内 容
 - ①オープニング「秋田県副知事あいさつ（VTR）」
 - ②障害者芸術福祉展「出品作品数283点 行事終了後に360度カメラで撮影したバーチャルツアー形式の映像を協会ホームページで紹介（常時公開中）」
 - ③製品販売「延べ24か所の障害福祉事業所が参加し、手工芸品や加工食品などを販売」
 - ④表彰式「障害者芸術福祉展秋田県知事賞の授与」

⑤来場者 約900人

(2) 実行委員会等の開催

①第1回実行委員会

- ・期 日 8月30日(月)
- ・場 所 県心身障害者総合福祉センター
- ・内 容 役員選出、予算について、開催要綱(案)についてほか
- ・出席者 委員13名、事務局6名

②第2回実行委員会

- ・期 日 10月29日(金)
- ・場 所 県心身障害者総合福祉センター
- ・内 容 オープニングについて、表彰式について、製品販売について、役割分担についてほか
- ・出席者 委員9名、事務局5名

2 専門相談機関設置事業(障害者110番)

障害に関する全般的な相談を行うとともに、障害を理由とする差別に関する相談に対応するための常設の相談窓口を設置、また、偶数月第3火曜日に弁護士による専門相談を行ったほか、県及び市町村の相談窓口への支援等を行った。

- ・相談件数99件(うち、弁護士相談5件、差別に関する相談3件)

II 事業別の概要

【1】障害者支援施設秋田ワークセンター事業の実績

1 総 括

新型コロナウイルス感染症予防対策により利用者参加行事は、昨年度に引き続き利用者と職員のみでの行事となり、外出を伴う行事の一部は中止を余儀なくされたが、外食支援と買い物支援は利用者の方からの要望もあり、一般のお客さんの少ない時間帯を選び開催した。

コロナ禍の中で、施設内での日常生活は大きな影響を受け、感染対策に苦慮する日々が続く中で、3回目のワクチン接種は、利用者38名(79%)職員36名(85%)が嘱託医の協力を得て、施設内で接種することができた。

施設入所者からの感染者や濃厚接触者は無かったが、通所利用者や職員及びその家族の感染が疑われ、検査の結果、陽性となった者が出た。いずれも保健所等の指示のもと適切に処置し、重症化した者はいなかったが、引き続き厳重な感染予防対策を講じて取り組む必要があると考えている。

就労支援事業では、コロナ禍の影響などもあり受注が前年度比で約3%減少した。また、印刷機械や器具の老朽化などから機器の修繕・更新や整備に取り組んだところであるが、経費削減は思うように進まなかった現状がある。

市内の総合病院の相談室などへの訪問を行い、新たな利用者の確保につなげた結果、施設入所者が9月以降満床となったが、収支のバランスを大幅に改善するまでには至っていない。また、着実に進んでいる入所利用者の高齢化と障害の重度化やこれに伴う重複障害に対応するため、夜間休日の支援職員を増やして支援体制の充実に努めた。引き続き、施設入所支援と生活介護事業、就労支援事業における利用者増に取り組むとともに、手厚い支援サービスの提供と魅力ある施設づくりに努めているところであ

る。

令和3年度の事業実績は次のとおりである。

2 各種事業の定員及び現員の状況 (令和4年3月31日現在)

施設入所支援事業	利用定員	48名	／	現員	48名 (男性33名、女性15名)
生活介護支援事業	利用定員	40名	／	現員	43名 (男性30名、女性13名)
就労継続A型事業	利用定員	10名	／	現員	6名 (男性6名、女性0名)
就労継続B型事業	利用定員	30名	／	現員	32名 (男性25名、女性7名)

3 職員配置の状況 (令和4年3月31日現在)

職 種	職員数		担 当 業 務
	令和3年度	令和2年度	
所 長	1	1	所内の総括、苦情解決責任者、会計責任者
サービス管理 責任者	2	2	個別支援計画、アセスメント、モニタリング等相談業務及び記録等の確認 (生活・施設入所1名、就労1名)
事 務 員	3(3)	3(2)	予算・決算の事務処理及び金銭の出納、利用料の請求・精算等、職員の給与、福利厚生、利用者支援等
生活支援員	12(7)	14(8)	生活介護支援及び日常生活支援、相談業務
就労支援員	7(3)	6(2)	作業支援及び指導、製品管理、営業販売、相談業務
看 護 師	2	2	利用者及び職員の健康管理
管理栄養士	1	1	給食献立、利用者の栄養管理
調 理 員	6(6)	7(7)	給食業務
嘱 託 医	1(1)	1(1)	利用者の検診、医務相談
合 計	35(20)	37(18)	嘱託医除く

※ (再掲) は嘱託職員・非常勤職員及びパート職員数

4 事業の実施状況

(1) 施設入所支援事業

コロナ禍の中で、施設内の換気や消毒、利用者の体調確認等の感染症予防対策に努めた。また、利用者が安全で安心して生活できるように充実した支援サービスの提供に努めた。個別支援計画では、利用者へのアセスメントやモニタリングに十分時間をとり、利用者の多様なニーズに対応するため関係者で協議を行い個別支援の充実を図った。

また、利用者の身辺自立を妨げないよう配慮した施設設備の改善を進めるとともに、夜勤者及び日勤者が起床・就寝時、朝・夕の食事前後、土日・祭日及び緊急時における様々なニーズに対応するため、職員間の情報共有を進めるなど切れ目のない支援の充実に努めた。

更に職員のチーム化や支援動作の検証を行いマニュアル化して職員個々の無駄な動きや重複支援を省くなど、効果的な支援の実施やリスク軽減のための支援体制の充実に努めた。また、日々の健康管理、食事・排せつ支援や生活相談を行うとともに利用者の満足度調査を実施するなど、利用者が充足感を感じられるサービス提供に努めた。

(2) 生活介護支援事業

新型コロナ感染防止の為、利用者の日中活動などを入所利用者と通所利用者を分けて実施するため、これまで一緒に行ってきたレクリエーション等も思うように実施出来なかった。利用者の多様なニ-

ズに応えるため、食事や入浴、排せつの介護、生活情報の提供など、日常生活における個人支援プログラムに沿ったサービスの提供に努めた。

更に、身体の機能維持や健康の保持、増進のために理学療法士による機能訓練計画を立て、計画に沿った訓練を実施し、通院・受診及び服薬支援のサービス提供を行った。

食生活の充実のため、配膳や下膳はもちろんのこと、個人に合った福祉用具を準備し、年齢とともに低下する嚙む力や飲み込む力の予防のため、お口の体操を行い支援の充実に努めた。

新型コロナ感染の影響もあり、これまで利用者が楽しみにして行って来た行事も縮小や中止せざるを得なかったが、利用者の方からの要望のある外食支援と買い物支援については、感染状況をみながら、感染リスクを減らす工夫等をしながら行うことが出来た。

(3) 就労支援事業

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、町内会や企業・団体の各種イベントが中止や延期となり、総会資料等やパンフレット等の注文が減少し、就労支援事業の売り上げ確保が厳しい状況となった。年度を通して受注の回復は見られず、受注目標5,600万円に対し実績は5,247万円と今年度の目標は達成できなかった。また、機械設備の老朽化のため修繕費用が増えるなど、経費削減が進まない現状がある。

利用者の賃金及び工賃の総支給額は1,559万円であった。

① 就労継続A型事業

新型コロナウイルス感染症のまん延等による景気の後退や各種社会活動の自粛等の影響を受け、特に印刷事業の収支が大幅に落ち込み、事業収支が改善しない状況が続いている。また、印刷設備の老朽化による設備更新や修繕も重なり経費削減が進まない状況となっている。

年賀はがきの印刷は、既存の顧客に対してダイレクトメールと、新規の顧客確保のため、近隣地域にもダイレクトメールを発送し、受注の確保に努めてきたが、顧客の高齢化や若者の年賀状離れにより受注件数、受注枚数は年々減少してきている。

営業面に於いては、当施設の福祉事業に理解のある企業関係や学校、保育所、地区社協等へ会報作成等の印刷発注情報の収集のための活動を行っているが、他事業所との競争も厳しく売上の増加には結びつかない現状がある。また、新型コロナの感染拡大により各種イベントの中止や延期となり営業活動に支障をきたすこともあった。障害者優先調達推進法や他事業所との共同受注といった制度を活用し、受注先開拓に結びつく活動を継続してきたが、印刷受注の低迷傾向を改善するまでには至っていない。

古紙等のリサイクル作業は、取引企業や福祉施設、古紙ステーションを利用しての地域住民等から安定した回収作業ができるようになったが、全体として回収量は横ばい状態である。しかし買取り金額の下落が続くなど厳しい状況が続いている。

② 就労継続B型事業

軍手の受注数は、減少傾向にあり売り上げは減少しているが、原材料費の値上げが続いていることに加え、軍手編み機の老朽化に伴い修繕が必要な機械が多いため、良質な製品の安定的供給のため、随時、設備の点検整備に取り組んでいる。

古布のリサイクル等のウエス作業は受注件数、収益とも増加傾向にある。営業活動も継続しており、新規顧客の確保に力を入れている。ただ、新型コロナウイルス感染症のまん延等により材料確保は時期により困難な場合もあるが、情報収集に努めながら納期に遅延が生じることのないよう取り組ん

でいる。

現在、利用者5名が施設内の清掃作業に従事しており、従事者の安定した収入源となっている。また、これにより施設利用者の快適な居住環境づくりに大きく貢献している。

5 施設の整備状況

① 利用者の居住環境改善整備（エアコン設置）

昨年度、東棟10室にエアコンを設置、今年度は西棟16室に設置し、すべての居室にエアコンを設置することで快適な居住環境の提供に努めた。

② 第一作業棟、事務室等環境改善整備（エアコン設置）

暖房機能付きエアコンを設置し、作業・執務環境の向上に努めた。

③ 給湯暖房燃料転換整備

地下タンク貯蔵所の配管からの漏洩に伴い、老朽化した重油ボイラーからガス燃料設備への転換工事を行った。

6 機器の購入及び設備の整備状況

（1）施設全般

① 自転車置場及び喫煙室屋根の整備

② 施設内喫煙室の間仕切りの設置

（2）生活介護支援事業

① 全自動洗濯機購入

② タブレット端末機導入（バイタル測定）

③ 多目的ホールテレビ導入

④ 電動ベッド導入

（3）就労継続支援事業

① 印刷機（4色機）の修繕

② 製版機の修繕

③ 送迎用10人乗り車両の導入

7 給食提供の状況

（1）行事食・選択食の実施

四季折々の日本の食文化や斬新なアイデアを盛り込んだメニューや満足感や幸福感など心理的な面も大切にしながら、楽しい豊かな食事提供を目指して年14回の行事食と9回の選択食を実施した。

（2）利用者の健康づくり

年4回の食事摂取量調査や身体・健康状況に関するデータを支援員、看護師などの専門職と共有して連携をはかり個別の栄養ケア・マネジメントの作成により、健康的な身体機能の維持増進のために栄養と健康の管理に努めた。生活習慣病の重篤化と合併症予防のため、栄養バランスと減塩を重視したメニュー提供と食事指導を実施した。

（3）福祉弁当

下北手地区社会福祉協議会から委託を受けて、地域の独居老人に対して月1回（6月～9月の夏季

間は中止)年間74食の福祉弁当を提供した。

8 健康管理の状況

(1) 定期健康診断、定期診察等

健康管理のために年2回の定期健康診断、月1回の嘱託医の診察、月1回の体重測定、週1~2回の血圧測定などの定期健診の充実を図り、疾病の早期発見・早期治療に努めた。

また、利用者のほとんどの方が何らかの疾病を抱え治療中であるため、計画的な定期通院と服薬管理の徹底に努めた。

(2) インフルエンザ感染予防

インフルエンザ感染予防のために、予防接種料金の一部を施設が負担し、希望者(利用者64名、職員36名)に予防接種を行った。(罹患者なし)

(3) ノロウイルス等感染症予防

所内での感染を防ぐために、施設内の消毒や日常生活における手洗い・うがいを励行し、朝の会やポスターの掲示等を通じて利用者等の意識の高揚に努めるとともに、職員に対しては、所内研修において発生時の対応についての手順、注意事項の確認を徹底した。(罹患者なし)

(4) 機能訓練の実施

平日の月曜日から金曜日の午後1時半から午後3時まで、理学療法士の作成した個別プログラムに添った機能訓練を実施し身体機能の保持増進を図った。

また、平日の11時20分から11時40分(昼食前)に「お口の体操」を行い、口腔機能の低下防止に努めた。

(5) 新型コロナウイルス感染症予防

新型コロナウイルスの感染拡大防止のために防護服の着脱や感染者が発生した場合の緊急時対応について訓練を行った。施設内で利用者や職員が接触する部分(手すり、ドアノブ、リモコン、蛇口など)は、毎日消毒を行い、衛生環境の強化に努めるとともに、県から配布された抗原検査キットを有効に活用し、施設内感染の防止に努めた。新型コロナワクチンの接種は嘱託医の協力を得て実施し、3回目の追加接種も8割近く終了している。相談支援事業所と就労支援事業の職員各1名と通所就労利用者1名の計3名の感染者が出たが、いずれも濃厚接触者の疑いで出勤停止中や利用中止中に発症しており、施設内での感染拡大は無かった。

9 衛生管理の状況

(1) 寝具類・シーツ交換

寝具類(枕、掛布団・肌掛、ベットパット等)の交換を年1回、シーツ・カバー類(掛布団・肌掛布団用)は毎週1回交換し衛生管理に努めた。

(2) 居室、浴室等の清掃

利用者の居室清掃(荷物の整理整頓及び室内清掃)を週1回以上行った。居室や共通利用スペースの浴室、脱衣室、廊下、多目的ホール等の清掃を毎日行い衛生管理に努めた。

(3) 入浴

一般入浴を月・木曜日の午後1時から午後4時まで行い、7月~9月の期間は水曜日でもシャワー浴を行った。

特浴及び支援入浴は火・金曜日に行い、女子は午前9時30分から午前12時まで、男子は午後1

時30分から午後4時までとして順番を決めて混雑がなくゆっくりと入浴をして頂いた。その他、入浴の出来ない利用者には清拭等も行いながら、身体の衛生保持に努めた。

10 災害事故防止等訓練の状況

(1) 重度障害者への防災上の配慮

- ①同室者（2人部屋）への配慮として、できるだけ歩行の困難な人同士や聴覚障害者同士等の組み合わせにならないよう配慮してやむを得ず同室にする場合は、緊急呼出ベルの設置や隣室者からの協力や職員への通報を密にするなどの対応を行った。
- ②障害の程度に対応した避難路の確保に努め、歩行の困難な人や目の不自由な人等は避難口に近い居室にするなどの配慮を行った。
- ③予備の車椅子を利用しやすい場所に配置するなど利便性に配慮した。

(2) 事故や災害防止と安全のために

①防災計画

きめ細やかな消防・防災計画の整備と万全な備えを行い、予防に重点を置いた取り組みを実施し、設備の点検・管理や整理・整頓を徹底した。

②避難訓練

日中・夜間（想定）も含めた総合訓練（通報、初期消火、避難の消火器操作訓練等）や、災害を未然に予防する防火思想の普及・徹底を図った。

また、災害時や停電時における安全対策や機械器具、装置の操作手順の周知に努めた。

自家発電機からコンセントまでの電線の整備を行っており、常にナースコール対応ができる等、停電時の電源の確保に努めた。

11 就労支援事業の研修

事業名	研修日
就労A・B型事業利用者・家族会合同研修	新型コロナウイルス感染症対策のため中止

12 就労支援事業の推移

(1) 事業収入額の推移

(単位：円)

区分	就労移行支援 (内部加工)	就労継続支援 A型(雇用型)	就労継続支援 B型(非雇用型)	年度総計
平成29年度	101,002	42,248,135	20,278,509	62,627,646
平成30年度	0	46,246,214	20,825,252	67,071,466
令和元年度	0	49,158,665	14,350,632	63,509,297
令和2年度	0	40,123,467	13,755,704	53,879,171
令和3年度	0	38,431,395	14,047,650	52,479,045

(2) 工賃支給実績額の推移

(単位：円)

区分	就労移行	就労継続支援A型	就労継続支援B型	年度総計
平成29年度	88,850	13,602,256	3,597,700	17,288,806
平成30年度	0	12,183,983	5,908,490	18,092,473
令和元年度	0	12,291,748	5,146,910	17,438,658
令和2年度	0	12,658,061	5,069,000	17,727,061
令和3年度	0	10,163,193	5,429,040	15,592,233

13 利用者の状況

① 市町村別の入所・生活介護利用者数

(単位：名)

区分	入所利用者			生活介護利用者		
	男	女	計	男	女	計
秋田市	20	12	32	18	11	29
男鹿市	2	1	3	2	1	3
横手市	0	1	1	0	0	0
大仙市	4	0	4	4	0	4
能代市	2	0	2	2	0	2
北秋田市	1	0	1	0	0	0
潟上市	1	0	1	1	0	1
小坂町	1	0	1	1	0	1
五城目町	1	0	1	1	0	1
三種町	1	1	2	1	1	2
合計	33	15	48	30	13	43

②年齢別・性別の入所・生活介護利用者数

(単位：名)

区分	入所利用者			生活介護利用者		
	男	女	計	男	女	計
20歳未満	0	0	0	0	0	0
20～29	1	1	2	0	0	0
30～39	0	0	0	1	1	2
40～49	5	2	7	6	2	8
50～59	3	5	8	2	3	5
60～69	13	5	18	12	5	17
70歳以上	11	2	13	9	2	11
合計	33	15	47	30	13	43
平均年齢	63歳	57歳	61歳	62歳	58歳	61歳

③入所・生活介護利用者の利用期間

(単位：名)

区分	入所利用者			生活介護利用者		
	男	女	計	男	女	計
1年未満	3	0	3	3	0	3
1年以上～3年未満	4	4	8	4	3	7
3年以上～5年未満	4	0	4	3	0	3
5年以上～10年未満	2	4	6	2	3	5
10年以上～15年未満	5	1	6	5	2	7
15年以上	15	6	21	13	5	18
合計	33	15	48	30	13	43

④ 入所・生活介護利用者の障害支援区分

(単位：名)

区分	入所利用者			生活介護利用者		
	男	女	計	男	女	計
支援区分1	0	0	0	0	0	0
支援区分2	4	0	4	2	0	2
支援区分3	10	5	15	9	5	14

支援区分4	10	4	14	10	3	13
支援区分5	8	5	13	7	4	11
支援区分6	1	0	1	2	1	3
非該当	0	1	1	0	0	0
合計	33	15	48	30	13	43

⑤新規入所・生活介護利用者数と利用直前の生活状況 (単位：名)

区分	入所利用者			生活介護利用者		
	男	女	計	男	女	計
他施設利用	0	0	0	0	0	0
自宅	1	0	1	1	0	1
病院	2	0	2	2	0	2
その他	0	0	0	0	0	0
合計	3	0	3	3	0	3

⑥退所利用者数と退所理由 (単位：名)

区分	入所利用者			生活介護利用者		
	男	女	計	男	女	計
自宅（家庭復帰）	0	0	0	0	0	0
他施設	0	0	0	0	0	0
通所から入所へ	0	0	0	0	0	0
病院	0	0	0	0	0	0
グループホーム	2	0	2	1	0	1
合計	2	0	2	1	0	1

(2) 就労支援事業

①市町村別利用者数 () 内の数字は施設入所者 (単位：名)

区分	A型通所利用者			B型通所利用者			合計
	男	女	計	男	女	計	
秋田市	6	0	6	21(4)	5(2)	26(6)	32(6)
男鹿市	0	0	0	1	0	1	1
横手市	0	0	0	0	2(1)	2(1)	2(1)
能代市	0	0	0	2	0	2	2(0)
北秋田市	0	0	0	1(1)	0	1(1)	1(1)
合計	6	0	6	25(5)	7(3)	32(8)	38(8)

②年齢別・性別利用者数 (単位：名)

区分	A型通所利用者			B型通所利用者			合計
	男	女	計	男	女	計	
20～29	0	0	0	7(1)	2(1)	9(2)	9(2)
30～39	1	0	1	2	3	5	6
40～49	2	0	2	4(1)	1(1)	5(2)	7(2)
50～59	2	0	2	5(1)	1(1)	6(2)	8(2)
60～69	1	0	1	5(1)	0	5(1)	6(1)
70歳以上	0	0	0	2(1)	0	2(1)	2(1)
合計	6	0	6	25(5)	7(3)	32(8)	38(8)
平均年齢	52歳	0歳	52歳	45歳	37歳	43歳	45歳

③利用者の世帯状況

(単位：円)

区分	A型通所利用者			B型通所利用者		
	男	女	合計	男	女	合計
親が生存	4	0	4	18(3)	7(3)	29(6)
兄弟、姉妹世帯	0	0	0	7(2)	0	7(2)
配偶者有り	1	0	1	0	0	1
家庭消滅	1	0	1	0	0	1
合計	6	0	6	25(5)	7(3)	38(8)

④ 新規利用者数と利用直前の生活状況

(単位：名)

区分	A型通所利用者			B型通所利用者			合計
	男	女	計	男	女	計	
他事業所利用	5	0	5	9	3	12	17
自宅	1	0	1	0	0	0	1
その他	0	0	0	16	4	20	20
合計	6	0	6	25	7	32	38

⑤ 障害支援区分の状況

A型通所利用者

(単位：名)

支援区分	1	2	3	4	5	6	非該当	合計
利用者数	0	0	0	0	0	0	6	6

B型通所利用者

(単位名)

支援区分	1	2	3	4	5	6	非該当	合計
利用者数	1	3	8	3	1	0	8	24

⑥ 退所利用者数と退所理由

(単位：名)

区分	A型通所利用者			B型通所利用者			合計
	男	女	計	男	女	計	
入所から通所へ	0	0	0	1	0	1	1
合計	0	0	0	1	0	1	1

(3) 医務室における処置及び利用者の入退院の状況

(単位：名)

区分	施設医務室における処置		入院		通院		
	実人員	延処置日数	実人員	延日数	実人員	延日数	
診療科目	内科系疾患	2	453	2	75	43	420
	外科系疾患	15	2,511	3	59	20	87
	精神科	0	0	2	103	13	93
	皮膚科	31	5,283	0	0	32	193
	眼科	12	2,270	1	4	18	44
	歯科	0	0	0	0	27	117
	耳鼻科	1	4	1	38	7	25
	泌尿器科	0	0	3	95	13	222
	その他	0	0	0	0	3	6
合計	61	10,521	12	374	176	1,207	

(4) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）、結核、疥癬等感染症等の予防対策及び実施状況

予防対策	実施状況
①（MRSA）：うがい、手洗いの励行。看護者の処置前後の手洗い消毒の徹底 高圧蒸気滅菌器による器具消毒 自動手指消毒器の設置 ② 結核：胸部レントゲン写真撮影（年1回）及び内科検診 ③ 疥癬：清潔、センター周囲の環境整備 ④ ノロウイルスによる感染性胃腸炎・病原性大腸菌 O-157： 手洗い、うがい、身体の抵抗力を養う。異常の早期発見。自動手洗機、石鹼液の設置 ⑤ インフルエンザ：ワクチン接種	①紙コップ、ペーパータオルを置き、声かけをし、うがい、手洗いの励行に努めた。また、通院後、手指消毒器により消毒し、処置の始め、終わりにも消毒を実施。 ②結核検診を1回／年、内科検診を2回／年実施した。 ③寝具類の清潔を図る。寝具の交換（年1回以上）、シーツ類等交換1回／週 ④安全な食事の提供。手洗いの徹底。体調不良者を早期にチェックする。 ⑤インフルエンザワクチンの接種。利用者64名、職員36名

(5) 新型コロナウイルス感染症の予防対策及び実施状況

予防対策	実施状況
① 職員の対応 ② 出勤の有無について ③ 利用者の通院について ④ 私用の外出について ⑤ 送迎支援について ⑥ 入所利用者の検温、体調観察 ⑦ 施設内の感染防止対策 ⑧ 抗原検査の実施 ⑨ ワクチン接種（3回目）の実施	① マスクの着用、手洗い・手指消毒・うがいの徹底 ② 出勤前、出勤時の検温。同居家族の健康観察 ③ マスクの着用、手洗い・手指消毒・うがいの徹底 電話診察、通院回数の調整 ④ 不用不急の外出はしない。マスクの着用、手洗い・手指消毒・うがいの徹底、外出後の検温、健康観察 ⑤ 送迎車内の消毒 ⑥ 検温と聞き取りによる異常の早期発見 ⑦ 換気の徹底と共有して接触する部分の消毒 ⑧ 抗原キットを使用して実施 ⑨ 嘱託医、かかりつけ医、集団接種で実施

(6) 利用者の健康診断

期間	実施人員	調査項目	検査機関
5月7日 ～ 6月2日	6名 6名	生活習慣病予防検査（A型利用者） 大腸ガン検査	秋田赤十字病院 ふき健診クリニック
6月2日 ～ 7月26日	36名 6名 22名 29名 34名 24名 35名	胸部X線検査（直接） 大腸がん（便潜血） 採血（貧血、肝機能） 心電図 視力検査 聴力検査 尿検査 内科検診（B型利用者）	中通りハビリ病院 ふき健診クリニック
8月12日 ～ 10月14日	全員	内科検診、聴打診、血圧測定、問診	鎌田循環器科クリニック

令和4年 1月13日 ～ 2月10日	全員	内科検診、聴打診、血圧測定、問診	鎌田循環器科クリニック (嘱託医)
-----------------------------	----	------------------	----------------------

14 職員の定期健康診断

期間	実施人員	実施職種	検査項目	検査機関
6月2日 ～ 7月21日	14名	35歳以下の職員	胸部X線、尿、心電図、採血他 (労働安全衛生法66条に基づく検査)	ふき健診クリニック
6月16日～ 1月24日	18名	35歳以上の職員	生活習慣病予防、大腸がん、胃検診、乳癌、子宮がん	秋田赤十字病院 附属あきた健康管理センター 市立秋田総合病院
9月21日 ～ 10月14日	2名	20～38歳偶数年齢女子職員	子宮がん	市立秋田総合病院
12月6日～ 1月26日	7名	夜勤職員	血圧、問診、尿、身長、体重 聴力、心電図、採血	ふき健診クリニック

15 避難訓練の実施状況

月日	訓練の想定	訓練内容詳細
5月28日	地震想定消防訓練	非常通報、避難誘導、救急救護、非常放送
9月15日	日中火災想定訓練、 消火器操作訓練	非常通報、初期消火、避難誘導、救急救護、非常放送
11月24日	夜間火災想定訓練	非常通報、初期消火、避難誘導、救急救護、非常放送

16 施設内研修の実施状況

実施日	実施内容	講師及び開設者	摘要
9月10日 9月17日 9月28日	急変時の判断、対応方法について ・救急車を要請する場合 ・症状別対応 ・心肺蘇生法について	看護師土田・飯坂	参加者10名
令和4年 1月25日	虐待防止・権利擁護について	相談支援専門員菅原	参加者10名
2月11日 2月16日 2月17日 2月21日	施設における感染予防対策 ・新型コロナウイルス感染症について ・防護具の着脱訓練について	看護師土田・飯坂	参加者11名

17 外部研修の実施状況

月日	研修名・場所	参加者
6月30日	安全運転管理者講習 (秋田市)	総務企画課長
7月14日	秋田県講師養成研修(講師・ファシリテーター養成研修)	サービス管理責任者

	(秋田市 中央地区老人福祉総合エリア)	(生活)
8月5日	危険物保安講習 (秋田市 秋田市文化会館)	サービス管理責任者 (就労)
8月10日	甲種防火管理新規研修 (秋田市)	総務企画課長 地域支援課長
9月8日	工賃向上セミナー (オンライン)	所長
10月5日	施設給食担当職員研修 (秋田市 秋田県社会福祉会館)	調理員
10月11日	障害者理解促進(事業者向け)研修会	所長
10月12日	障害者総合支援法に基づく集団指導(オンライン)	所長
8月17日～ 9月6日 10月12日	サービス管理責任者等基礎研修 (e-ラーニングによる講義) " (オンライン)	生活支援員
8月17日～ 9月6日 10月18日	秋田県相談支援従事者初任者研修 (e-ラーニングによる講義) " (秋田市 中央地区老人福祉総合エリア)	サービス管理責任者 (生活)
10月22日	小型車両系講習 (秋田市)	就労支援員
11月5日	施設給食担当職員研修 (秋田市 秋田県社会福祉会館)	調理員
11月12日	福祉保健施設・事業者等看護職員研修 (秋田市 秋田県社会福祉会館)	看護師
11月16～ 17日	キャリアパス対応生涯研修(チームリーダーコース) (秋田市 秋田県社会福祉会館)	就労支援員
11月29～ 30日	キャリアパス対応生涯研修(初任者コース) (秋田市 秋田県社会福祉会館)	生活支援員
12月1～ 2日	キャリアパス対応生涯研修(中堅職員コース) (秋田市 秋田県社会福祉会館)	生活支援員
12月9日	福祉実践 2021 in あきた (秋田市 秋田市文化会館)	生活支援員
12月10日	リスクマネジメント研修 (秋田市 メトロポリタン秋田)	生活支援員
12月13日	秋田県社会就労センター協議会 事業所見学会 (秋田市 秋田旭川福祉会明成園)	サービス管理責任者 (就労)
12月20日	苦情解決研修会・上級編(オンライン)	所長
令和4年 2月24日	秋田県障害福祉団体協議会障害福祉関係団体合同研修会 (オンライン)	所長
3月15～ 16日	キャリアパス対応生涯研修(チームリーダーコース) (秋田市 秋田県社会福祉会館)	サービス管理責任者 (生活)

【2】秋田ワークセンター相談支援事業の実績

1 総括

障害福祉サービス等の利用希望者に対して、ニーズに沿ったサービス等利用計画を作成しサービス調整を図った。また、障害特性に合ったサービスが提供されているか、他に課題はないか等定期的なモニタリングを行った。

相談支援専門員としての資質向上と専門的知識の習得を図るため研修会等に参加し、新たに行動障害支援体制加算と精神障害者支援体制加算の算定を得ている。

障害者の個別ニーズに応じて、最適な地域資源を適時・適切に活用できるかを常に検討し、情報提供・相談・調整を行うため、医療・学校関係者、基幹相談支援センター、地域包括支援センター、成年後見人や福祉事務所・保健所等と連携して相談支援事業を行った。

秋田市における障害福祉の支援システムづくりに関して中核的な役割を担う「秋田市障がい者総合支援協議会相談支援部会」や障害者の地域移行を推進するための「地域生活支援拠点等会議」の委員として積極的に関わった。

令和3年度の事業実績は以下の通りである。

2 事業及び職員

- (1) 事業 指定特定相談支援事業（計画作成）
- (2) 職員 管理者 1名（常勤・兼務）
相談支援専門員 2名（常勤・専任）

3 事業の内容

- (1) サービス等利用計画の作成及び提出
- (2) サービス等利用計画作成後の便宜の提供
- (3) サービス等利用計画の変更

4 事業の主な対象者

- (1) 身体障害者
- (2) 知的障害者

5 月別件数

月	サービス等利用計画作成		モニタリング	
	身体	知的	身体	知的
4月	5	20	8	11
5月	3	4	18	15
6月	2	5	6	15
7月	3	3	6	14
8月	5	3	7	10
9月	2	3	22	29

10月	3	3	5	10
11月	4	5	10	9
12月	11	9	5	4
1月	3	8	8	10
2月	2	3	7	7
3月	4	4	16	7
計	47	70	118	141
総数	117 (101)		259 (240)	

() は前年度実績

6 会議・研修への参加状況

期間	内容	場所	出席者
月1回開催 (10月～2月)	障がい者総合支援協議会 相談支援部会	センタース	相談員
7月28日～29日	強度行動障害支援者養成研修 (基礎)	河辺総合福祉交流センター	相談員
9月1日～2日	強度行動障害支援者養成研修 (実践)	秋田テルサ	相談員
10月12日～13日	サービス管理責任者基礎研修A日程 ファシリテーター	遊学舎	相談員
10月26日～27日	サービス管理責任者基礎研修B日程 ファシリテーター	県社会福祉会館	相談員
11月16日～17日	精神障害者支援の障害特性と支援 技法を学ぶ研修会	県社会福祉会館	相談員
11月18～12月9日 (配信期間)	障害者虐待防止・権利擁護研修 共通研修	ユーチューブ配信	相談員
11月25日～26日	サービス管理責任者実践研修① ファシリテーター	県社会福祉会館	相談員
11月30日	基幹相談支援センター事例検討会	センタース	相談員
12月9日	障害者虐待防止・権利擁護研修施 設従事者コース	ズームにて	相談員
12月21日～22日	サービス管理責任者実践研修② ファシリテーター	県社会福祉会館	相談員
令和4年 2月21日	秋田市基幹相談支援センター主催 研修会	ズームにて	相談員
3月16日	地域生活支援拠点等会議	市職員研修棟	相談員 2名

7 職員の定期健康診断

期間	検診機関	実施人員
6月 2日	ふき健診クリニック	1
7月 13日	秋田赤十字病院	1

【3】コミュニティライフサポート谷内佐渡ホーム事業の実績

1 総括

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、職員と利用者は手洗い、消毒、外出時等における手指の消毒の徹底等に全力で取り組むなど感染症対策に努めた。当ホーム利用者の感染発生はなかったが引き続き感染症防止対策の徹底を継続することとしている。

グループホームでは、利用者が安心して暮らせるよう、サービス利用に関するアセスメントやモニタリングに十分時間をとり、利用者のニーズを充足するため関係者で話し合いを行い、個別支援の充実を図り利用定員7名を維持している。

短期入所では、秋田市障がい福祉課や相談支援事業所等と連携を図り、地域生活支援拠点等の体制づくりを進めた。

令和3年度の事業実績は次のとおりである。

2 定員及び現員の状況

(令和4年3月31日現在)

共同生活援助 利用定員 7名/現員 7名(男性7名)

短期入所 利用定員 3名/現員 0名(男性0名)

3 職員配置の状況

(令和4年3月31日現在)

- ① 管理者 1名(兼務)
- ② サービス管理責任者 1名
- ③ 生活支援員 2名(兼務2名)
- ④ 世話人 4名(兼務1名)
- ⑤ 事務員 1名(兼務)
- ⑥ 夜間支援従事者 9名(兼務9名)

4 事業の実施状況

(1) 共同生活援助

利用者が安全で安心な日常生活を過ごすことができるよう夜間、休日における起床、就寝、食事提供、入浴支援等日常生活の相談及び助言等を行い、快適な生活を過ごすことができるよう支援を行った。

又、個別支援計画は、利用者のニーズに基づいた支援が提供できるよう作成し、利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう支援し、行政機関や他の障害福祉サービス事業所等と密接な連携に努めた。

(2) 短期入所

利用者又はその家族の緊急時における対応として、利用者の宿泊を伴う支援を提供するため、その身体状況や置かれている社会・家庭環境に応じて、入浴や排せつ、食事の介護等必要な支援を適切かつ効果的に行った。新型コロナウイルス感染防止のため、短期入所の受入れ時には事前に抗原検査キット等で検査を行い、陰性であることを確認してから受入れを行った。

また、行政機関や他の障害福祉サービス事業所等と密接な連携に努め、利用者等に関する情報共有を図った。

5 給食提供の状況

(1) 日々の食事が美味しく家庭的な雰囲気の中で、栄養バランスや体調に配慮し、季節を感じられるよう四季の郷土食等も交えて提供した。又、食前の手洗い、うがいを励行し、食中毒及び感染症の予防を徹底した。

(2) 調理者の健康管理（腸内細菌検査等）及び衛生管理（手洗い、清潔な服装等）に留意し、集団食中毒及び感染症の予防対策に万全を期すとともに、調理場や食堂の衛生管理（食器・調理器具等の消毒、調理環境の清掃、整理整頓等）の徹底に努めた。

6 入居者の健康管理の状況

入居者の定期通院や内服管理の支援を行うとともに、血圧測定等を定期的に行うなど、病気の早期発見、早期治療に努めた。

7 衛生管理の状況

(1) 寝具類の交換及びシーツ交換

寝具類（枕、敷・掛布団等）の交換を年1回、シーツ、カバー類（枕・布団等用）の交換を週1回行い寝具類の清潔に努めた。

(2) 居室、浴室等の清掃

利用者が自ら居室の清掃（荷物の整理整頓及び床や隅々の清掃）を行うよう支援するとともに、共通部分である浴室、脱衣室、廊下、食堂等の清掃を行い衛生管理に努めた。

(3) 入浴

入浴日を週3回とし、6月～9月はシャワー浴も提供した。又、快適に、そして安全に入浴ができるよう、利用者の障害に対応した支援を行った。

8 災害事故防止等訓練の状況

(1) 防災計画

きめ細やかな消防・防災計画の整備と万全な備えを行い、予防に重点を置いた取り組みを実施し、設備の点検・管理や整理・整頓を徹底した。

(2) 避難訓練

所轄の秋田市城東消防署の指導を得て、日中・夜間想定も含めた総合訓練（通報、初期消火、避難、消火器操作訓練等）や、地震想定での避難訓練を行い、災害を未然に予防する防火思想の普及・徹底を図った。又、災害時や停電時における安全対策や機械器具装置の操作手順の周知に努めた。

9 利用者の状況

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(1) 共同生活援助

①市町村別の利用者数

(単位：名)

区分	身体障害者	知的障害者	その他障害	合計
秋田市	2	2		4
能代市	2			2
男鹿市	1			1
合計	5	2		7

②年齢別利用者数

(単位：名)

区分	身体障害者	知的障害者	その他障害	合計
20歳未満	0	0	0	0
20～29	0	0	0	0
30～39	0	0	0	0
40～49	0	0	0	0
50～59	3	0	0	3
60歳以上	2	2	0	4
合計	5	2	0	7
平均年齢	58歳	65歳	0	60歳

③利用者の利用直前の生活状況

(単位：名)

区分	身体障害者	知的障害者	その他障害	合計
施設	4	0	0	4
自宅	1	2	0	3
病院	0	0	0	0
その他	0	0	0	0
合計	5	2	0	7

④退居利用者数と退居理由

(単位：名)

区分	身体障害者	知的障害者	その他障害	合計
自宅	0	0	0	0
他施設	0	0	0	0
アパート	0	0	0	0
その他	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

⑤ 障害の程度

(単位：名)

区分	身体障害者手帳						療育手帳		合計
	1級	2級	3級	4級	5級	6級	A	B	
等級	2	3	0	0	0	0	0	2	7

(2) 短期入所

①市町村別の利用者数

(単位：名)

区分	身体障害者	知的障害者	その他障害	合計
秋田市	3	11	0	14
合計	3	11	0	14

②年齢別利用者数

(単位：名)

区分	身体障害者	知的障害者	その他障害	合計	比率
20歳未満	0	1	0	1	7%
20～29歳	2	3	0	5	36%
30～39歳	1	4	0	5	36%
40～49歳	0	3	0	3	21%
50～59歳	0	0	0	0	0
60歳以上	0	0	0	0	0
合計	3	11	0	14	100%
平均年齢	27歳	33歳	0	32歳	

③月別利用者数

(単位：名)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延人数	10	3	29	32	9	28	32	29	28	49	39	10	298
実人数	3	1	2	4	1	4	6	5	3	5	5	4	43

10 職員の定期健康診断

月日	実施人員	検査項目	健診機関
6月2日	3名	胸部X線検査、尿検査、心電図、採血検査他 35歳以上	ふき健診クリニック
1月24日	1名	生活習慣病予防検査、大腸がん検査、乳癌、子宮がん、胃検診	秋田赤十字病院

11 避難訓練の実施状況

月日	訓練内容詳細
6月10日	地震想定避難訓練
10月23日	非常通報、初期消火、避難誘導、消火器操作
令和4年3月12日	非常通報、初期消火、避難誘導、消火器操作

12 会議・研修の実施

月日	内容	出席者
令和4年3月16日	地域生活支援拠点等会議	課長

